



子供たちに伝えたい日本のよさ

『思いやりが、国を越えた交流に！』

日本とトルコは1万1000キロを隔てたアジア大陸の東と西の端に位置していますが、両国民は互いの国民のことを誇りに思える歴史を共有しています。第2号は、トルコと日本の友好の原点となったお話をお送りします。

【このような場面での活用が考えられます。】

- 朝礼の講話
- 関連する授業や道徳の授業の導入での話題提供や終末での説話
- 学校だよりや学級だよりのコラム
- 学年集会や学校行事等での講話 等



— 今月のテーマ — — 海外との交流 —

「日本・トルコ交流のはじまり」

1887年（明治20年）、小松宮彰仁（こまつのみや・あきひと）親王殿下はヨーロッパ視察旅行の帰途、イスタンブールを御訪問し、オスマン・トルコ皇帝（スルタン）アブデュル・ハミト2世に謁見しました。この時の歓待に感謝し、翌年、明治天皇は皇帝に親書と漆器を贈られました。

1889年7月、アブデュル・ハミト2世は、日本に答礼の特派使節を派遣しました。オスマン・パシャ（海軍少将）を代表として軍艦エルトゥールル号に乗ってやってきた使節団はトルコから日本に派遣された最初の使節でした。

1890年6月、同使節団は横浜に到着、オスマン・パシャは明治天皇に拝謁し、オスマン帝国の最高勲章を捧呈しました。使節は約3か月間、日本に滞在し、トルコに帰還することになりました。

ところが、帰還途中の9月16日夜、和歌山県の樫野崎灯台付近で台風による強風と高波の影響を受け、エルトゥールル号は座礁、沈没してしまいました。

樫野崎灯台がある大島村（現在の串本町）では、生存者の保護と遺体収容のため、村を挙げて懸命に対応にあたりました。また、日本海軍も知らせを受けると、軍艦八重山を派遣し、村民と協力して遭難者の埋葬を行いました。

救出された69名の乗組員は、神戸で治療を受け、その後、明治天皇の命により軍艦金剛、比叡によって、丁重にトルコへ送還されました。両軍艦は1891年1月2日、イスタンブールに到着し、トルコの歓迎を受け、両艦長には皇帝から勲章が授与されました。これに対し、後日、明治天皇からもトルコ海軍少将等へ勲章が授与されました。

また、約600名の死者を出した本事件は日本国内で大きく報道され、義捐金も集められました。

このような日本国民の対応はトルコ人の心を打ったとされ、極めて痛ましい事件ではありましたが、本事件は両国の友好の原点とされています。



エルトゥールル号乗組員
出典：『土耳其国軍艦エルトグルル号』

出典：外務省ホームページ

http://www.mofa.go.jp/mofaj/ms/da/page22_001052.html

困っている人がいれば、精一杯の援助を行う日本人の行動が、国と国の良好な関係につながるという事例です。

相手を思いやる行動が、遠い海外の国の人にも伝わっている例は、他にもあるのではないのでしょうか。

皆さんの身近な生活の中に、何気ない思いやりが大きな関係につながっていることはあるのではないのでしょうか。

日本の伝統・文化紹介

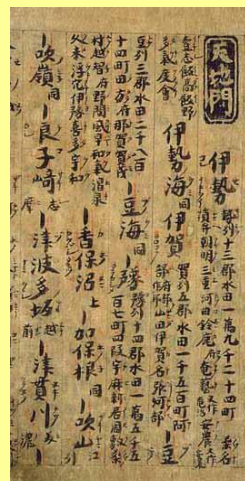
【文字】

日本人は、漢字・平仮名・片仮名の三種類の文字を組み合わせて用いるという、世界でも稀（まれ）な文字の使い方をしてしています。漢字は、一字一字が一定の意味を表す表意文字、平仮名・片仮名は、一字一字が音声（音韻）を表す表音文字です。私たちは、これらの文字を文章や文脈によって使い分けることで、視覚的に文章の意味内容を捉えやすくしたり、外来語を抵抗なく吸収し利用したりすることができます。

古代の日本では、文書なども漢字を用いて記録していました。しかし、人名や地名などの固有名詞、日本人の情感をともなった歌や歌謡、さらには日常使われている言葉を表現するために、一つの音を表す文字を必要としました。

平安時代になると、漢字だけの文章ではなく、漢字と片仮名を交えた文章や、和歌や物語を書き表すために平仮名で書かれた文章が登場するようになります。片仮名も平仮名も、漢字の一部を用いたり、漢字全体を書き崩したりすることによって成立しましたが、漢字とは違って、完全に表音だけを目的とした文字として定着することになりました。

主として片仮名は、もともと漢字だけで書かれていた文章を日本的に読み下す、補助的な文字として使われ、公式の文書や仏書などに多く見られます。また、平仮名は草書体の漢字を更にくすした、優美な書体を持ち、和歌や物語などの文学作品などに多く用いられました。



特色ある取組

【千代田区立和泉小学校】

小学校「神田雷神太鼓」^{はやし}「神田囃子」の取組



『神田雷神太鼓』
秋葉原東部納涼大会や神田祭、学校行事等で演奏しています。



『神田囃子』
神田祭や学校行事等での演奏。神田囃子子供連が中心となり、今年で創立32年目を迎えます。

神田の地域の方々は「神田祭」を中心とした街の歴史と文化に強い思い入れがある。和太鼓やお囃子など、神田の文化を後世に伝えることは神田の街を愛する人々にとってとても大切なことである。

神田雷神太鼓の曲は事始め、銀杏返し、早掛け、追い打ち、乱れ打ち、掛け合いの6曲である。地元の人が盛り上げたいとの、熱い思いから生まれた太鼓は、伝統文化を児童に伝える大切な機会となっている。一方、神田囃子の曲は、打ち込み、上屋台、昇殿、鎌倉、仕丁目上下玉入れ、神田丸下、下屋台、大上げの9曲である。昨年からは、獅子舞の取組も始め、神田の歴史を児童に伝える大切な機会となっている。

このように、日本の文化を伝えることができる児童を育成することは学校の大きな役割であり、和泉小学校では、地域との連携を密に取り、協力を仰ぎながら伝統文化教育を進めている。

伝統・文化に関するイベント等

★都立多摩図書館

都立多摩図書館には、中高生の読書を応援する青少年エリアがあります。ここでは折々にミニ展示を行い、本を紹介しています。現在展示中のテーマは「紙」と「職人」です。

※展示場所：都立多摩図書館青少年エリア

<紙>

伝統的な日本の手すき和紙、最先端の工業製品としての紙、それぞれの紙を作り出す人々の物語など、奥深い紙の世界に関する本を紹介しています。

『紙つなげ!彼らが本の紙を造っている』 佐々涼子著 早川書房

『和紙の里探訪記』 菊地正浩著 草思社 ほか

<職人>

日本の伝統技術を守り、今に伝える職人たち。それぞれの職人になったきっかけや技へのこだわり、日々の生活など、職人に関する本を紹介しています。

『東京職人』 Beretta P-05 著 雷鳥社

『女職人になる』 鈴木裕子著 アスペクト ほか

○「東京マガジンバンク」企画展示

「創刊号に見る明治・大正の時代 一文芸誌を中心に」

前期（明治期）平成27年1月9日（金）から3月4日（水）まで

開館時間：午前9時30分から午後7時まで（土日祝日は午後5時まで）

※明治・大正時代に創刊された文芸誌の変遷と創刊号コレクションを展示します。明治期は西洋の思想や文化の流入により大きく変わっていく姿を紹介します。大正期は3月6日（後期）から展示します。

★都立中央図書館

企画展示（会場：4階企画展示室、入場無料）午前10時から午後5時30分まで

「東京の都市計画 ～魅力ある世界都市を目指して～」

平成27年1月24日（土）から3月22日（日）まで

※関東大震災や戦災など、いくつもの惨禍から再生・発展してきた東京の都市計画について、図書館資料で紹介します。

企画展示（会場：1階入口ロビー、入場無料）

「大津波からよみがえった郷土の宝 - 陸前高田市立図書館 郷土資料の修復展 -」

平成27年2月20日（金）から3月11日（水）まで

※東日本大震災により被災した岩手県陸前高田市立図書館所蔵の郷土資料を修復しています。修復の様子などを写真やパネルで紹介します。

★東京都江戸東京博物館 ※ 常設展示室は平成27年3月27日（金）まで改修工事中

特別展「探検！体験！江戸東京」

平成26年12月2日（火）から平成27年3月8日（日）まで

開館時間：午前9時30分から午後5時30分まで（土曜日は午後7時30分まで）

※江戸東京の歴史や文化に関する、珍しい資料や小・中学校の教科書に掲載されているような資料も紹介します。

※本資料に対する御意見・御感想や、本資料の活用実践等がありましたら、以下担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきたいと考えております。

【担当】

東京都教育庁指導部指導企画課

03-5320-6869